

相生ロータリークラブ週報

No. 3148

第26号

(1月第3例会)



相生ペーロン祭 前夜祭花火大会 (ペーロン祭協賛会提供)



2023~2024年度国際ロータリーのテーマ

世界に希望を生み出そう

国際ロータリー会長 ゴードン R. マッキナリー

例会日/毎週水曜日 12:30~13:30

例会場/相生商工会議所 Tel(0791)22-1234

事務局/相生市旭3-1-23 相生商工会議所内

Tel(0791)23-0144 Fax(0791)22-2290

会長 江見 重人
幹事 平田 雅義
会報委員長 井出 進

例 会 記 録

2024(R6)年1月24日
会報委員長 井出 進

プログラム1月31日(水)

「高熱隧道」

(下田会員)

次週プログラム2月7日(水)

「卓話」

(田口晴会員)

◆点 鐘 (江見会長)

◆ソング “それでこそロータリー”

◆出席報告 (大川例会運営委員長)

会員数	出席数	事前 メイクアップ	出席免除
27	23	1	1
本日出席率	事後 メイクアップ	1/10 欠席数	1/10 出席率
92.3%	2	0	100%

事前: 石原会員 (姫路 RC)

事後: 石原会員 (龍野 RC)

岡田会員 (龍野 RC)

◆ロータリー財団寄付表彰

マルチプルポールハリスフェロー(2回目)

栗尾重徳会員

◆会長の時間 (江見会長)

皆さんこんにちは。

今日はほんとに寒いです。昨年、雪でロータリーが休会になったのも同じ頃だったのでは？

万全の防寒対策でお風邪など召さないようにお願いします。

さて、今日は他愛もない話です。新年最初の例会で男山八幡宮、姫路総社への初詣でおみくじを引き両方とも大吉だった話をしましたが、集大

成として当社の神様が祭ってある伏見稲荷神社へ参拝してきました。山頂にある神さんにお参りし本殿で祈禱をした後、おみくじを引いたところ、なんと「凶」でした。内容は「人生の危機にある兆である。一步誤ると思わざる破目になる恐れあり。折角生まれてきた一生を誤らぬようによく考えよ。今は神に祈る以外にない」と冷たい厳しいことが書かれていました。引いたことを後悔しながら帰路に着きました。これではいけないと思い、実は昨日神戸で所用を済ませたあと生田神社へ参拝に行き、最後の望みでおみくじを引きました。結果は「大吉」、これでプラマイゼロになりホッとしたところです。がそこには椿の花を愛でる歌が書かれており「椿の花のように好調の真ただ中にあります。ただ傍観しているのではなく、この好機を生かす努力をすれば必ず報われる」その通りです。

神頼みするだけではなく自ら努力した者が報われる。これは自分を戒める言葉であると反省した次第です。



◆幹事報告 (平田幹事)

○例会変更

- ・姫路南 RC
2月12日(月) 休会
2月19日(月) ⇒ 2/17(土)
西播第一グループ IM
14:30~20:00
於 ホテル日航姫路

○回覧…姫路 RC、篠山 RC 週報

○菊賀会主催「琴 初春のしらべ」案内

◆委員会報告

○職業奉仕委員会 (松浦委員長)

去年の10月22日の職業奉仕セミナーの橋本様の講演の資料です。読んでください。

◆SAA (半田SAA)

ニコニコ箱

- 江見会員…今日は寒い。寒い！
- 平田会員…寒波到来!! 皆様ご自愛ください!!
- 神谷会員…今日・明日はこの冬一番の寒さです。
皆様、充分にお気をつけ下さい。
- 大西恒会員…本日卓話当番です。よろしくお願
いいたします。
- 淮田会員…寒いですね。写真ありがとう。
- 鳴瀬会員…昨日、1/23は私の66回目の誕生日で
した。近くの孫たちがプレゼントとメッセー
ジを個々に持って来て嬉しくなり、お小遣い
をあげました。ジジの本領発揮です。

◆プログラム (大川例会運営委員長)

「知恵泉『大黒屋光太夫』

担当 大西恒会員

本日は、NHK Eテレで放映されている「知恵泉」という番組の中から2024年1月23日に放映された「大黒屋光太夫 皇帝を動かした 諦めない心」と題された回をご覧ください。「知恵泉」という番組については、『悩んだり、壁にぶつかったり。そんな皆さんに大きなヒントをくれるのが、歴史上の人物から知る、様々な「知恵」 苦手な上司への対処法から、部下を上手に指導するコツ、そして新規プロジェクト成功の秘訣などなど。歴史居酒屋「知恵泉」では、明日から役立つユニークな知恵の数々をご用意し、皆さまのお越しをお待ちしております。当代きってのプロフェッショナル = 仕事人の甘辛トークも、つまみにどうぞ。』と紹介されています。

大黒屋光太夫 皇帝を動かした 諦めない心

出演:角幡唯介 (探検家・ノンフィクション作家)
ヨシダナギ (フォトグラファー)
大石 学 (東京学芸大学名誉教授)

大黒屋 光太夫 (だいこくや こうだゆう、宝暦元年 (1751年) - 文政11年4月15日 (1828年5月28日)) は、江戸時代後期の伊勢国奄芸郡白子 (現在の三重県鈴鹿市) の港を拠点とした回船 (運輸船) の船頭。天明2年 (1782年)、嵐のため江戸へ向かう回船が漂流し、アリューシャン列島 (当時はロシア領アラスカの一部) のアムチトカ島に漂着。その後はカムチャツカ、オホーツク、ヤクーツクを経由して1789年 (寛政元年) にイルクーツクに至る。道中、カムチャツカでジャン＝バティスト・バルテルミー・ド・レセップス (Barthélemy de esseps) (フランス人探検家) に会い、後にレセップスが著した旅行記には光太夫についての記述がある。イルクーツクでは日本に興味を抱いていた博物学者キリル・ラクスマンと出会う。1791年 (寛政3年)、キリルに随行する形でサンクトペテルブルクに向かい、キリルらの尽力により、ツァールスコエ・セローにてエカチェリーナ2世に謁見して帰国を願い出する。壮麗な宮殿に数百人が居並ぶ中、何を語ったのか? 謁見に至るまでの過程 (知恵その1!) と謁見の際 (知恵その2!) の“生き残るための知恵” に迫る。

知恵その1! 上下なきつきあいで、信用を勝ち取れ

- ・まわりの人々に一切考えを隠そうとしない澁漣とした印象を与えた。
- ・運命を受け入れながら与えられた条件で精いっぱい戦うタイプ。
- ・卑屈にならず人に頼ることが出来る。
- ・誰に対しても変わらぬ率直な振る舞いが信用を勝ち取り友情の輪が広がった。

知恵その2! 感情を赤裸々にぶつけ相手の心を揺さぶれ!

ヨシダナギ氏の意見:

赤裸々にぶつけることは、同じ人間が共鳴する事だと思ふ。自分が思っている事をどんな事でもいいから吐き出す。うれしい、悲しい、怒っているとか全部伝えることが仲良くなる一番の近道。

角幡唯介氏の意見:

あともう一つは行動。彼がやってきた行動が心を動かすというのもあった気がする。行動によってその本気度が伝わる。

◆点 鐘 (江見会長)